

町田市立つくし野中学校 広報誌

つくし野中だより

発行

町田市立つくし野中学校

電話 042-795-0323

FAX 042-795-8765



第13号

令和8年

3月12日

◎◎人生という「旅」を生きる ~ツーリストからトラベラーへ~◎◎ 校長 河野 真一

校庭の桜のつぼみが日ごとに膨らみ、柔らかな春の光が校舎を包む季節となりました。卒業、そして進級という大きな節目を前に、生徒たちの表情には、晴れやかさと共に、どこか引き締まった決意が混じり合っているように感じられます。

古くから多くの先人が「人生は旅である」と言い残してきました。終わりがあるからこそ尊く、どこへ辿り着くか分からないからこそ面白い。この一年間、学校という場所で共に過ごした時間もまた、皆さんの長い人生における大切な「旅の一行程」だったと言えるでしょう。

さて、今年度を締めくくるにあたり、皆さんに一つの問いを投げかけたいと思います。皆さんは「ツーリスト(観光客)」と「トラベラー(旅人)」の違いを考えたことがあるでしょうか。

「ツーリスト」は、あらかじめ決められたスケジュールに従い、安全で快適なガイド付きの道を歩きます。目的地も、見るべき景色も、すべて誰かに用意されています。一方で「トラベラー」は、目的地こそあれど、そこに至る道筋は自分で決めます。時には道に迷い、予期せぬトラブルに見舞われることもありますが、その過程でしか出会えない景色や人々、そして「自分自身の強さ」を発見していく存在です。

実は私も、若い頃は『最短距離で成功したい』と願うツーリストのような生き方をしていました。しかし、人生には思いがけない通行止めや、深い霧で前が見えない時期が何度もありました。当時は苦しかったのですが、今振り返れば、その『寄り道』で出会った人々や、迷いながら考え抜いた経験が、今の私を支える一番の力になっています。」

【The journey is the reward】

意味はわかりますか？世界的な企業アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズも、かつてこんな言葉を遺しています。「旅の過程にこそ価値がある」という意味で、「目的地にたどり着くこと(結果)だけが報酬なのではなく、そこに至るまでの道中(プロセス)すべてが、自分自身への何よりの贈り物である」ということを趣旨としています。



用意されたルールの上を歩いているうちは、迷うことはありません。しかし、自分の意志で一步を踏み出した瞬間、私たちは「迷い」という壁にぶつかります。つまり、迷っているということは、あなたが自分の人生を自分の手で動かそうとしている、何よりの証拠なのです。

中学校という場所は、ある意味では先生や親に守られた「ツーリスト」としての旅かもしれません。しかし、これからの人生という広大なフィールドには、決まったガイドブックも、正解のルートもありません。失敗を恐れて用意された道だけをなぞるのではなく、時には回り道を楽しみ、予想外の出来事さえも自分の糧にする。そんな「トラベラー」としての勇気を持ってほしいと願っています。

生徒の皆さん、この一年、皆さんと共に旅ができたことを私は誇りに思います。新しいステージでも、あなたらしい素晴らしい「旅」を続けてください。

---

# Tsukushino Junior High School Every Day

---

## 【卒業を祝う会(I組)】

3月2日にI組で卒業を祝う会が行われました。午前中は学級でレクや調理実習を行い、みんなで作ったキーマカレーとデザートを食べ、午後から祝う会となりました。3年生から心のこもった言葉、保護者の方のお話、歌や出し物など様々な企画があり、涙なしでは語れないような、素敵な思い出に残る素晴らしい行事となりました。1・2年生は3年生の思いをしっかりと受け継ぎ、よりよいI組を目指していきましょう。



## 【進路を語る会・学習アドバイス】

キャリア教育として、3年生の各クラスの代表生徒が下級生に学習に関する話をする活動があります。3月5日(木)に3年生の代表生徒18名が2年生の各クラスを訪れ、自身で作成したスライド資料をもとに一年間の進路に取組について後輩に伝える「進路を語る会」がありました。3月4日(水)には3年生の代表生徒48名が1年生のクラスを訪れ各般に1名ずつ入り、事前の質問に対する回答を話す「学習アドバイス会」がありました。身近な先輩たちからの貴重な意見は今後の大きな財産となったようです。



## 【スクールカジュアルデイ】

3月3日(火)～5日(木)の三日間で、今年度2回目のスクールカジュアルデイを実施しました。「学校生活にふさわしいTPOを考えた服装」ということを大きな目的としています。ほとんどの生徒が目的を考えた自分らしい服装をしている人もいれば、制服や学校指定ジャージの人もいて、普段と変わらぬ生活を送っていましたが、一部に課題も残りました。生徒たちで考えて実行している企画ですので、生徒同士で趣旨を理解し、声を掛け合い、課題を解決して、よりよい企画にしていってほしいと思います。



## 【三年生を送る会】

3月6日(金)5・6時間目に「3年生を送る会」を実施しました。委員会や部活動からの祝いメッセージなどをPC部員が編集した「お祝いのメッセージ動画」は完成度が高く、とても素晴らしいものでした。これ以外にも卒業生の合唱のプレゼント、美術部の制作したくす玉、教員プレゼントの思い出動画など、厳粛な雰囲気との卒業式とは違う、和やかな雰囲気の送る会となりました。準備を進めてきた3年生を送る会実行委員の皆さんをはじめ、1年生・2年生のみなさん、お疲れさまでした。



出演団体一覧	演劇部	男子バスケットボール部
納金委員会	合唱部	女子バスケットボール部
生活委員会	合唱部	女子バスケットボール部
体育委員会	剣道部	バドミントン部
図書委員会	軽運動部	バレーボール部
美化委員会	サッカー部	パソコン部
放送委員会	吹奏楽部	美術部
保健委員会	卓球部	野球部
生徒会本部役員	男子テニス部	陸上競技部
女子テニス部		
協力	撮影・編集	
三年生を送る会実行委員会	パソコン部	



### ◆◆ 保護者の皆様へ ◆◆

令和7年度を終えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。この一年間保護者の皆様には、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

つく中で過ごしたこの3年間の学校生活は、お子様にとって、様々な変化に臨機応変に対応しつつ、以前を思い出しながら試行錯誤してきた活動の連続でした。そんななか、生徒は前向きに、そして誠実に様々な活動を行ってきました。今年度は、PTA様より体育祭で使用する簡易テントをご寄贈いただきました。また、各行事では、運営を支えていただきましたこと、本当にありがとうございます。こうした保護者の皆様の陰ながらのお力添えがあってこそこの学校教育だと思えます。

これからもつくし野中学校を温かく見守っていただくと共に、至らぬ部分につきましては遠慮なくご指摘いただければ幸いです。本校教職員一同、生徒の安心、安全そして健やかな成長を願って、今後も教育活動に取り組んでまいります。よろしくようお願い申し上げます。

## 今後の主な予定

- 3月17日（火） 卒業式予行
- 18日（水） 卒業式準備 ※3年給食なし
- 19日（木） 卒業証書授与式 ※1・2年授業なし
- 23日（月） 6時間目まで
- 24日（火） ⑤大掃除
- 25日（水） 修了式・離任式

## 失敗を武器に

失敗することは恥かしいと思うのは当然です。しかし、自分自身のことを「明るいとはいえない」、「何のとりえもない」と思っている人は、人一倍失敗することを恐れすぎて、かえって自分らしさが発揮されません。

こんな話を聞いたことがあります。自分に全く自信のない人がいました。周りからも地味と言われ、異性にも残念ながら人気がありません。しかし、ある失敗から「誰からも愛される人」になりました。それは大勢の仲間が集まって、砂浜でスイカ割りをしていたときのことです。その人の番が来ました。周りの友達は大きな声で「もっと左!」「行きすぎ!」などと、はやし立てず。慎重な性格から小股で恐る恐る歩きます。ようやくスイカの前まで来たとき、周りから「がんばって!」と声援がありました。それを聞き、みんなの前でカッコイイところを見せようと、棒を剣道の様に上段に構え、ジャンプしながらスイカを割ろうとしました。ところが、ジャンプの時に砂浜に足をとられて前のめりに倒れ込み、勢い余って顔面でスイカを割ることになりました。周りの友達は、一瞬、何が起こったかわかりません。心配して近寄るとその人の顔はスイカだらけ。次の瞬間、辺りは大爆笑でした。それ以来、その人は「顔面でスイカを割った人」として話題になり、存在感の薄い人物から脱却し、だれにも明るく接することができるようになったそうです。



失敗しないようにとか、ミスを隠そうとかしていれば、自然に自分の存在感を消してしまいます。存在感が薄くなれば、光は当たりません。失敗してもいいや、いや「堂々と失敗してやろうじゃないか!」という気持ちで挑戦することが、自分らしさを発揮するコツかもしれません。失敗しても、あはははと笑って振り返り、繰り返さないように次の挑戦に立ち向かうことが必要なのではないのでしょうか。

失敗という経験は、一見すると遠回りに見えるかもしれませんが。しかし、植物が厳しい冬を超えて春に花を咲かせるように、ぶつかった壁や流した涙は、目に見えない「成長の根」を深く張るための大切な時間です。この三月、これまでの歩みを振り返り、自分自身の成長を静かに実感してください。そして、四月からこれまでの「武器」を携えて、自信をもってそれぞれの次のステージに踏み出してほしいと願っています。

(副校長 残間 喜満)